

決算特別委員会

委員長 井元 宏三

副委員長 大村 謙吾

委員 池田 稔巳 神田 全記 竹山 俊郎

松尾 実 山内 貴史 山内 政夫



委員長報告全文は
こちらをご覧ください。

決算特別委員会レポート

令和5年9月定例会において設置された決算特別委員会で、本市の令和4年度決算についての審査が行われました。ここでは、本特別委員会で主に論議のあった項目を掲載しています。

審査日 令和5年 9月25日、26日、28日、29日
10月2日、3日（6日間）

嘱託員設置事業

Q 世帯数は区によって大きな差があるが、嘱託員（区長）の報償費はどのように算出しているのか。

A 合併前の旧市町村単位でそれぞれ算出方法が決められており、年65万2千円が上限額である。

Q 世帯数が少ない区は運営も難しくなっている。区の統合などの話は出てきているか。

A 現在のところ統合の話は聞いていないが、今後はそのような状況も予想される。

高齢者スマートフォン購入支援事業

【事業内容】65歳以上を対象に、スマートフォン購入時の支援を行う。

Q 今後も事業を継続する考えはあるのか。

A 本事業は令和5年度も予算化しているが、令和6年度以降は、財政部局とも協議していきたい。



市政情報発信事業

Q 毎月の広報誌発行部数と配布残はどのくらいあるのか。

A 発行部数は、毎月1日発行分が1万4千部、15日発行分が1万3700部であり、予備は400部程度ある。



〔広報ひらど〕

Q 予備の数が多くはないか。

A また近年、防災メールやLINEなどのツールもあるため、時代に応じて情報提供のあり方を考えていかなければならないのではないかと考えられている。

Q 広報誌の部数を減らすことで単価が上がる可能性はあるが、令和6年度に見直したい。また、将来的に紙媒体は減っていくことも考えられるが、情報提供のあり方は、状況を見極めながら判断したい。

文化センター管理運営事業

Q 平戸文化センターの指定管理者は、条例等に基づき運営していると思うが、施設利用の取り扱いが、前指定管理者と若干異なっていると聞く。市としての考えは。

参議院議員通常選挙費

長崎県議会議員一般選挙費

Q 選挙ポスター掲示板については、効果的な場所への設置と集約について以前から指摘されていたが、見直しはされたのか。

A 選挙ポスター掲示板の設置箇所については、令和4年度中に全件を調査し、令和5年4月9日執行予定であった、長崎県議会議員一般選挙における設置時から、より効果的な場所への移設などを行い、設置数も従来の295か所から210か所に集約した。



ワンコイン

まごころサービス事業

【事業内容】移動時間を含め1時間以内（500円）で、ひとり暮らしの高齢者の買い物など、身の回りの支援を行う。

Q 業務委託先のシルバー人材センターは北部地区の会員が多く、サービス利用者は北部地区に偏っている状況とこのだが、他地区の利用が

増えるよう、利用できる時間を延ばすことはできないのか。

A 本事業に従事するシルバー人材センターの会員の条件などもあるため、シルバー人材センターの意見も聞きながら、そのような対応が可能か協議したい。

高齢者いきいき

おでかけ支援事業

Q 交通機関などの利用を助成する「いきいきおでかけ券」は、現状の利用範囲では必要性がない人もいることから、予算の執行残が多くなっている状況にある。元気な高齢者を増やす観点からも、免許を持っていない方にはガソリン代として利用可能にするなど、利用できる対象範囲や、1回あたりの利用上限額（現行1千円）を見直すことができないか。

A 「いきいきおでかけ券」の利便性向上については、定期的にアンケートを実施しており、今後、利用範囲を広くすることも考えていきたい。

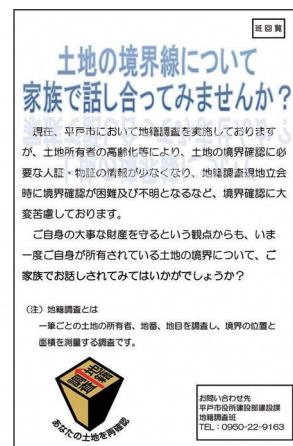


A 休館日や利用料金、施設の予約受付は条例等に基づき運営している。利便性については改善する部分もあるため、指定管理者側と課題を共有しながら、市民が利用しやすい施設になるよう努めていく。

地籍調査事業

Q 本市の令和4年度末の地籍調査進捗率は、全体の17.8%とのことだが、地籍調査は長期に渡る事業であり、今後土地所有者の代替わりも予測される。地籍調査に先駆け、個人の土地の境界に対する認識を家族間で継承してもらうような働きかけをし、地籍調査の実施にあたって現地確認しやすい体制づくりが必要ではないか。

A 令和5年9月に、個人の土地の境界について家族で話し合い、認識を深めてもらうよう周知する回覧を出した。今度も年に1度は、このような広報活動を継続していきたい。



〔回覧したチラシ〕

シルバー人材センター支援事業

Q シルバー人材センターについては、人件費が高騰している中において、手数料も控除されるため賃金が低いと聞く。国の基準に基づき運営補助をしているということだが、市独自で運営費補助の増額を検討してどうか。

A 定年延長などの影響により、会員数も徐々に減少している状況にある。シルバー人材センターと現状を踏まえた協議をしながら検討したい。

骨髄等移植ドナー支援事業

【事業内容】骨髄等（骨髄と末梢血管細胞）の提供に要する通院・入院に対して7日間を上限とし、1日あたり2万円の支援を行う。

— 令和4年度本市で1件の実績あり。

Q 骨髄提供を待つ人とドナーの型が適合する確率は非常に低い。本事業を含めて周知啓発活動ができれば、ドナー登録者も増えるのではないかと。

A 本事業の認知度を高め、ドナー登録を推進していきたい。

